

「タックルの正しい方法」チェックポイント

2011年、RWC日本開催は夢に終わってしまいました。残念。

国内のチーム数や経済力共に開催国としての資格をもちながら、人口の多いアジアで一度という流れと日本の熱意が認められなかった。グローバルに考えて、日本が手を上げた事は有意義な事だし、希望をもって、10年のスパンで、足元を固めて努力をすれば、必ずや日本ラグビーの課題解決の道は開けるものと思います。

ラグビーシーズンも深まり各地で熱戦が繰り広げられています。眼を閉じているのでしょうか、頭が相手の身体の下になり、危険なタックルを見て薄氷を踏む思いをしました。

観戦中に「飛び込め!!」といった声をよく聞きます。観衆の興奮も歓声も大いに結構なことですが、ただ、プレーヤー特に指導者がその留意点を十分認識し、本当にラグビーを楽しんで欲しいと思います。今年の菅平合宿でタックルに係わる重大事故があったと聞いています。大きな事故はプレーヤー自身にとって一生に係わる大問題であるとともに、ラグビーの普及発展を阻害する重大事件です。とりわけ指導不足や過度の叱咤激励による人災ともいべき事故の発生を危惧せざるを得ません。

タックルは勇気だけの問題ではありません。身体の成長に見合った鍛練とタックルについての段階を踏んでの理解と練習^(*)の後に勇気が大切なのです。

R.F.U.作成のポスターによってもう一度正しいタックルのチェックポイントを確認しましょう。



- 1 HEAD BEHIND SEAT 頭は腰の後ろ
- 2 KEEP LOW 身体は低く
- 3 EYES OPEN 目は開く
- 4 STRONG FINGERS, STRONG WRISTS, STRONG ARMS 指、手関節、腕は固くして
- 5 keep on contact on the ground 爪先は地面から離れない

そして

ボールを持ったプレーヤーにとって大切なこととして、

I must find support. サポーターを見いだすことを掲げ、

さらに、次の yes, no の2つのチェックポイントがあげられています。

yes. always place your head to side or behind the player you are tackling

常に頭はタックルをしつつあるプレーヤーの横側か後ろになるようにする

no, never place your head in front of the player you are tackling

決して頭でタックルをしつつあるプレーヤーの前に置いてはいけない

以上、既によく分かっていることとして安易に考え、鈍感になってしまっていないでしょうか。遠くへ勢いよく飛び込めば爪先が地面から離れます。タックルはタックルされるプレーヤーとタックルするプレーヤーの位置取り、コースが重要な要素です。よく鍛練した身体のパレーヤーがタックルを段階的に理解し練習を重ねた上で勢いよくタックルした場合に爪先が地面から離れる場合も否定するのではありませんが、R.F.U.で敢えて図示して注意を喚起していることに注目しなければならぬと痛感します。

*1 参考 コラムリンク [タックル研究 Part1](#)
[タックル研究 Part2](#) ラグビーは、「立って」プレーする競技

2005.12.12
西川 義行